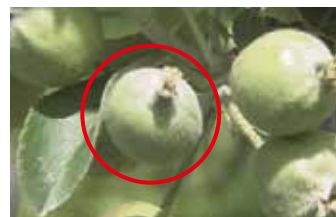


一つ成り摘果

作業の目的

- ◆ 果実の肥大の促進、品質向上を図ります。
- ◆ 隔年結果防止、樹勢の維持を図ります。

- ◆ 摘果は果実の肥大、品質、食味も左右しますので、確実に中心果を残し、側果を摘みましょう。
- ◆ 摘果を行うことで、中心果に注がれる養分が増えるため、中心果の生育が良くなります。
- ◆ 中心果が変形果などの障害果の時は、側果の中から良い果実を残します。
- ◆ 大きい果実、つるの太い果実を残します。
- ◆ 一つ成り摘果は残すりんごの間隔(4頂芽に1果)を意識して行うことで、仕上げ摘果の効率も上がります。
- ◆ できるだけ早く一つ成り摘果を終わらせるようにしましょう。



発育の悪い中心果



発育の良い中心果



発育不良果



障害果(つるが短い)

仕上げ摘果

作業の目的

- ◆ 果実の肥大の促進・品質向上を図ります。
- ◆ 残った果実をさらに選別して、品質を揃えます。

〈摘果する果実〉

- ◆ 果そうの弱い果実(葉の枚数が少ない株)
- ◆ 枝の真下の果実(腹実)
- ◆ 真上の果実(逆さ実)
- ◆ 生育の悪い果実
- ◆ 果台の長い果実
- ◆ 副梢が長すぎる果実
- ◆ 長果枝に成った果実
- ◆ 障害のある果実